

関係各位

愛知県農業総合試験場長
(公印省略)

病害虫発生予察情報について (送付)

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和2年度病害虫発生予報第12号 (3月)

担当 環境基盤研究部病害虫防除室
電話 0561-62-0085
内線 471
ファックス 0561-63-7820

令和2年度病害虫発生予報第12号 (3月)

令和3年3月4日
愛知県

普通作物

・予報内容

| 作物名 | 病害虫名 | 発生量 (発生時期) | 主な 発生地域 | 予報の根拠 | 予報への影響 |
|-----|------|---------------|------------|---|---------------|
| コムギ | 赤さび病 | やや多い | 県全域 | 前年の発生量は平年並 3月の気温は高い 3月の降水量は平年並か多い | ± + ±~+ |

・防除対策

[コムギ・赤さび病]

コムギ赤さび病は、気温が12~20℃かつ葉面に水分があると、感染可能であることが知られています。多発した2015年、2016年は当年2月1日~3月31日の間に、日平均気温12℃以上かつ降雨のあった日数が4日以上記録されていました。今年も2月15日、3月1日の降雨がこの感染好適条件に該当しています。2月に感染好適条件が記録された状況は、2015年、2016年とよく似ていますので、今後の発生状況及び気象予報に注意してください。

本病を防除するためには、茎立後~止葉抽出期に1回目の薬剤散布、開花期に赤さび病防除も兼ねた2回目の散布を実施すると効果的です。今冬は気温が高く推移しており、平年よりも生育が進んでいます。そのため、各ほ場の生育段階に合わせてワークアップフロアブル、アミスター20フロアブルなどで防除を実施しましょう。

なお、前年発生が多かった地域では、特に注意しましょう。また、多肥は発生を助長するので、肥培管理を適正に行いましょう。

・留意事項

前年作におけるイネ縞葉枯病の発病株率は平年並でしたが、一部地域で本病の発生が確認されました。本病はウイルス病で、ヒメトビウンカが媒介するため、育苗箱施薬を行いヒメトビウンカを防除しましょう。

果樹

・予報内容

| 作物名 | 病虫害名 | 発生量 (発生時期) | 主な 発生地域 | 予報の根拠 | 予報への 影響 |
|-----|--------|---------------|------------|-------------------------------|------------|
| ナシ | 黒星病 | やや多い | 県全域 | 前年秋期の発生量は平年並 3月の降水量は平年並が多い | ± ±～+ |
| モモ | せん孔細菌病 | やや多い | 県全域 | 前年秋期の発生量は平年並 3月の降水量は平年並が多い | ± ±～+ |
| ブドウ | 黒とう病 | 平年並 | 県全域 | 前年の発生量は平年並 | ± |

・防除対策

〔ナシ・黒星病〕

発芽前までに石灰硫黄合剤で防除しましょう。また、鱗片組織から芽基部組織への発病を減らすため、りん片発病芽は見つけ次第除去し、デランフロアブルやICボルドー48Qなどでりん片脱落期に防除しましょう。なお、薬害の心配があるので、石灰硫黄合剤との散布間隔は2週間以上空けるようにしましょう。

〔モモ・せん孔細菌病〕

本日発表の「モモせん孔細菌病春季防除情報」を参考に防除しましょう。

・留意事項

前年の6月下旬の巡回調査におけるブドウ黒とう病の発生量は平年並でしたが、昨年の長梅雨によって、本病原菌の越冬量が多くなっている可能性があります。本病原菌の越冬伝染源である棚に残った巻きひげや被害枝などは見つけ次第、園外へ持ち出して処分しましょう。特にシャインマスカットは巨峰より本病に弱いため、防除を徹底しましょう。

名古屋地方気象台3月4日発表の1か月予報によれば、向こう1か月の平均気温は、高い確率が70%となっており、果樹の萌芽、発芽やりん片脱落など生育が早まる可能性があります。生育段階に合わせ、防除適期を逃さないように気をつけましょう。

モモでマルカイガラムシ類の発生が多いほ場では、モモ黒星病、モモ縮葉病などの病害防除を兼ねて石灰硫黄合剤で発芽前までに防除しましょう。

前年秋にフジコナカイガラムシの発生が多かったカキほ場では、越冬虫数が多くなっています。発芽前にマシン油乳剤を丁寧に散布し防除しましょう。

野菜

・予報内容

| 作物名 | 病虫害名 | 発生量 (発生時期) | 主な 発生地域 | 予報の根拠 | 予報への 影響 |
|------|------|---------------|------------|---|---------------|
| キャベツ | コナガ | やや多い | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 3月の気温は高い 3月の降水量は平年並が多い | ± + ±～- |
| タマネギ | 白色疫病 | やや多い | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 3月の降水量は平年並が多い | ± ±～+ |

| 作物名 | 病害虫名 | 発生量 (発生時期) | 主な 発生地域 | 予報の根拠 | 予報への影響 |
|--------------|-----------------|---------------|------------|---------------------------------|----------|
| タマネギ | べと病 | やや多い | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 3月の降水量は平年並が多い | ± ±～+ |
| トマト (施設) | 疫病 | 平年並 | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 | ± |
| | 灰色かび病 | やや多い | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並が少ない | ± ±～+ |
| | 葉かび病 | やや多い | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並が少ない | ± ±～+ |
| | コナジラミ類 | やや多い | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 3月の気温は高い | ± + |
| ナス (施設) | うどんこ病 | 平年並 | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 | ± |
| | 灰色かび病 | やや多い | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並が少ない | ± ±～+ |
| | すすかび病 | やや少ない | 県全域 | 2月下旬の発生量は少ない 3月の日照時間は平年並が少ない | - ±～+ |
| | ミナミキイロ アザミウマ | 平年並 | 県全域 | 2月下旬の発生量はやや少ない 3月の気温は高い | - + |
| キュウリ (施設) | べと病 | やや多い | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並が少ない | ± ±～+ |
| | うどんこ病 | やや少ない | 県全域 | 2月下旬の発生量はやや少ない | - |
| | 灰色かび病 | やや多い | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並が少ない | ± ±～+ |
| | ミナミキイロ アザミウマ | やや少ない | 県全域 | 2月下旬の発生量は少ない 3月の気温は高い | - + |
| イチゴ (施設) | 灰色かび病 | やや多い | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は平年並が少ない | ± ±～+ |
| | うどんこ病 | 平年並 | 県全域 | 2月下旬の発生量は平年並 | ± |
| | ハダニ類 | やや少ない | 県全域 | 2月下旬の発生量は少ない 3月の気温は高い | - + |

・防除対策

[キャベツ・コナガ]

本種は春先に気温が高くなると生育が早くなり、発生量が増加します。発生を確認したら、ゼンターリ顆粒水和剤などで速やかに防除しましょう。収穫終了後は、残さを速やかにすき込みましょう。

[タマネギ・白色疫病、べと病]

発生株は伝染源となるため、見つけ次第抜き取り適切に処分しましょう。発生を確認したほ場では、ザンプロDMフロアブルやリドミルゴールドMZなどで防除しましょう。

〔トマト（施設）、ナス（施設）、キュウリ（施設）、イチゴ（施設）・灰色かび病〕

過剰なかん水を避け、換気を図るなど施設内が多湿にならないようにしましょう。発病が見られるほ場では、発病果や発病葉は速やかに取り除き、ピカットフロアブルやファンタジスタ顆粒水和剤などで防除しましょう。

〔トマト（施設）・葉かび病〕

パレード20フロアブルやベルコート水和剤などで防除しましょう。

〔トマト（施設）・コナジラミ類〕

11月2日発表の「コナジラミ類情報第1号」を参考に防除しましょう。コナジラミ類は、トマト黄化病の病原ウイルス（T o C V）を、タバココナジラミは、トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（T Y L C V）を媒介します。気温の上昇に伴い増殖しやすくなりますので、黄色粘着板などを設置して発生状況に注意するとともに、発生量が多くなる前に防除しましょう。収穫終了後は、残さを外に持ち出す前に施設を密閉して媒介虫を死滅させましょう。

〔キュウリ（施設）・べと病〕

過剰なかん水は避けましょう。ザンプロDMフロアブルやゾーベックユニベルなどで防除しましょう。

・留意事項

イチゴでは、ハダニ類の発生量は少ないですが、多発しているほ場もあります。多発すると防除が困難になるので、早めに防除しましょう。また、アザミウマ類が多発しているほ場もあります。例年、気温の上昇とともに発生量が増加します。施設開口部や吸気口の付近等発生しやすい場所をよく観察し、発生を確認したら速やかに防除しましょう。天敵を導入している、あるいは導入を予定している場合は、それらの影響日数に注意して農薬を選定しましょう。

花き

・留意事項

夏秋ギクの採穂の時期になります。ウイルス病などの病害が発生していない親株から穂を採りましょう。

発生量に関する用語については、ホームページ「あいち病害虫情報」（アドレス：<http://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/yougo.htm>）を参照してください。

参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方気象台3月4日発表）

〈特に注意を要する事項〉

期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

〈予想される向こう1か月の天候〉

向こう1か月の出現の可能性が最も大きい天候と、特徴のある気温、降水量等の確率は以下のとおりです。

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。

向こう1か月の平均気温は、高い確率70%です。降水量は、平年並または多い確率ともに40%です。日照時間は、平年並または少ない確率ともに40%です。

週別の気温は、1週目は、高い確率80%です。2週目は、高い確率70%です。3～4週目は、高い確率60%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：20% 高い：70%

〔降水量〕 少ない：20% 平年並：40% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：40% 多い：20%